

集会案内

日曜日

礼拝：2:00pm-2:45pm

教会住所

c/o Grace Hills Church
24521 Moulton Pkwy
Aliso Viejo, CA 92637
中庭の小さいチャペル

地図



ホームページ

www.irvinihongokyoikai.org

榊原宣行牧師

電話(714)827-6244

Eメール: nobu@occc.org

杉村宰牧師

電話 (714)527-1456

Eメール:sugimura1950@gmail.com

◎石叫 ■

「僕はキエフに残る」

「外出が難しいキエフの高齢者宅を回り、食料品などを届けるエフイム君」というタイトルで以下の記事が掲載された。(二〇二二年三月十三日『読売新聞』ウクライナに侵攻したロシア軍は都市を包囲し、市街地への攻撃を日に日に強めている。街にとどまる市民の中には、持病を抱えるなどして移動が難しい高齢者と、そのような人々を支えようとする家族やボランティアがいる。そして、それぞれが不安と闘いながら毎日を通りかかっている。「僕が手助けしなくちゃいけない人が、たくさんいる。今は人の役に立ちたい」。キエフに住むエフイム・スレパク君(10)は十二日、本紙の取材にこう話した。エフイム君は、会社経営の父ユーリさん(34)と母マリナさん(36)、妹、弟の5人家族。エフイム君はユーリさんが運転する車に乗って、それら高齢者の家を一日7軒ほど回り、食べ物や薬を届けている。エフイム君の通う学校は、ロシア軍が侵攻した二月二十四日から休校中だ。教員や児童らは避難のため国内外に散り散りになったが、隣国ポーランドに落ち着いた数学担当の女性教員が、今月八日からオンライン授業を開始した。児童たちはヨーロッパ各地から授業に出席。エフイム君は「短い時間だったけれど、普通の生活に戻ったみたいだった。どんな形でも、みんなとつながっていられるのは、とてもうれしかった」と喜んだ。母マリナさんは「日増しに緊張感が高まり、私たちも避難の準備はしている。でも今は、子どもたちが残りたいと言ってくれている。ウクライナはこれまでもロシアに翻弄され続けてきた。今回は、私たちの独立を保つ最後のチャンスだと思っている。キエフに残り、私たちができる限りのことはしたい」と明かす。

多くの人々が故郷を離れて国外に避難する中で、キエフに残るとするのは、決死の覚悟であろう。それは死と隣り合わせの決断である。だが、たとえ死んでも、愛する人々のために尽くしたいと思うのは、人間が本来持つ美しい情の一つである。「愛は死のように強く」(雅歌八・6)とあるが、この戦時のため語られたかのような神の言葉である。そう、この時でなくては表せない愛の行為があることを知らされるのである。ウクライナから遠く離れたアメリカにいても出来ることはある。祈りと具体的なサポートである。それを今しよう。

Rev. Tsukasa Sugimura

「私達の教会の歩み」

2005年9月18日、アーバイン日本語キリスト教会は、南オレンジ郡地域の日系人とその関係する方達の救いのために、東洋宣教会北米ホーリネス教団オレンジ郡キリスト教会の伝道所として礼拝を開始しました。現在は、榊原宣行牧師の監督のもと、杉村宰牧師と啓子師をはじめ、田畑彰牧師、ジェームス・パーク牧師、佐藤裕士兄と、信徒達の協力で毎週礼拝をささげ、伝道と牧会の働きをし、月一回の家庭集を開いております。

「ミッション・ステートメント」

アーバイン教会の使命は、罪の中にある人々を救うために十字架について死んで下さり、三日後に復活されたイエス・キリストの歴史的事実を、まだイエス・キリストを知らない日本語を理解出来る人々に、主の大宣教命令(マタイ28:18-20)に従って宣べ伝え、ホーリネスという愛の信仰を土台として信者達の信仰の成長をうながし、イエス・キリストとの祈り深い生活へと導き、整えられたクリスチャンとすることにあります。